



えまるじょん

放課後等デイサービス 支援プログラム

作成日

7 年

3月

15 日

(別添資料1)

法人（事業所）理念		学校での学習や周囲との関わりに困り感をもつ子どもたちが、将来、社会の中で安心して生活できることを目指します。						
支援方針		子どもたちの表面上のあらわれから背景を読み取り、１人１人に適切な支援を行う。						
営業時間		平日 （月～金）	10 時	0 分から	17 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり
		学校休業日 （夏休み等）	10 時	0 分から	16 時	0 分まで		
		支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	職員による通所時の表情、身体を目視による身体的な健康確認と、短いコミュニケーションによる心の状態の把握をする。 通所時は①靴を靴箱に入れる、②荷物ロッカーに入れる、③手を洗う、④おやつを選ぶ、などの流れを一定にし、生活リズムを整える。						
	運動・感覚	「つかむ」「体重移動をする」感覚を含むボルダリングや、「バランス」「跳ねる」感覚を含むエアーマットなどの場を活用することで、子どもたちの身体感覚を育てる。 運動室において集団遊びで身体を動かすことにより、動作の獲得や筋力の向上を図る。						
	認知・行動	同じ空間にいる利用児や職員に対して、その場における適切な言葉の使い方を示すことで適切な認知を育む。 自分の気持ちを落ち着かせるための行動、相手を不快な思いにさせない行動などが身につくように支援する。						
	言語 コミュニケーション	体調・気持ち・出来事など意図的に子どもに対して質問することで、子どもの言葉を引き出すようにする。 イエス・ノーで答える質問や、回答をより良い表現に言い換えて子どもに返すことなど、一人一人の段階に応じて言葉のキャッチボールをするよう努める。						
	人間関係 社会性	集団で運動遊びやカードゲームなどをすることで、自然に会話が生まれ、人間関係を構築するきっかけを作る。必要に応じて声のかけ方を職員から伝える。 長期休みには事業所外に出かけることを通して、社会性を学べるようにする。						
家族支援		連絡機能を使い、それぞれの保護者の個別の要望・相談に対応できるようにしている。 職員が保護者と直接話す機会をなるべく多く作り、子どもの情報共有ができるようにしている。				移行支援	ライフステージの切り替えを見据えた将来的な移行について相談・情報の提供を行なっている。	
地域支援・地域連携		通っている学校や病院などと情報や方針などの共有をすることで、子どもたちのよりよい利益になるようにしている。				職員の質の向上	毎日のミーティングにおいて情報共有をしながら、ケーススタディを行い、支援の仕方を学んでいる。週に１回の職員研修で発達について学ぶ機会を作っている。	
主な行事等		季節に合わせた活動（夏のプール、夏祭り、クリスマス会、こども忘年会、節分、など） 夏休み、冬休み、春休みのお出かけ（こどもの国、もちや、柿田川、るくる、まある、スケート、など）						